

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：科学と疑似科学の間 ILAS Seminar :Between Science and Pseudoscience	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Letters Professor,ISEDA TETSUJI		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	15 (12)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Tue.5
Classroom	Seminar room 7, Faculty of Letters Main Bldg. (Main Campus)			Language of instruction	Japanese
Keyword	科学哲学 / 科学社会学 / 代替医療				
[Overview and purpose of the course]					
<p>科学のようで科学でないといみなされるもの、いわゆる「疑似科学」について調べて発表することを通じて、科学とは何かということへの理解を深めていくことを目的とする。</p> <p>科学と疑似科学の間の境界をどのように設定するかという問題は、20世紀後半の科学哲学において重要なテーマの一つとみなされてきた。また、科学と疑似科学の境界画定作業が持つ社会的な意味は、科学社会学的な検討の対象ともなってきた。そうした理論的な興味とは別に、代替医療やあやしげな健康・美容製品をはじめとして、疑似科学とされるものがわれわれの生活に与える影響もまた無視できないものとなっている。このセミナーでは、疑似科学というものについて考える上でのある程度理論的な視点を最初に身につけたあと、具体例についての発表とディスカッションやレポートの作成を通じて、現実への応用力を高めていく。</p>					
[Course objectives]					
<p>科学と疑似科学を分ける特徴は何か、ひいては科学とは何かについての科学哲学や科学社会学における考え方を理解する。</p> <p>疑似科学がからむ問題として、現代社会においてどのような問題が発生しているか知る。</p> <p>科学哲学や科学社会学の視点を利用しながら、疑似科学と呼ばれるものについて分析し、考えることができるようになる。</p>					
[Course schedule and contents]					
講師によるレクチャーと受講生による発表から構成される。					
第1回-第3回 講師によるレクチャー 第4回-第13回 受講生による発表 第14回 まとめ 第15回 フィードバック					
[Course requirements]					
None					
[Evaluation methods and policy]					
平常点（出席、発表、討論への参加）（60点）と期末レポート（40点）をもとに評価する。 ・期末レポートは、4,000字程度のものを書いてもらう予定です。発表を膨らませて文章にして					
Continue to ILASセミナー：科学と疑似科学の間(2)					

ILASセミナー : 科学と疑似科学の間(2)

もらってもよいし、他のテーマを選んでかまいません。

[Textbooks]

伊勢田哲治 『疑似科学と科学の哲学』 (名古屋大学出版会、2003年)

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業の前後に教科書を読むことで理解を深める。

[Other information (office hours, etc.)]

金曜 15:00-16:30